

道徳委員会

1 研究テーマ

「 体験を生かした心に響く道徳教育のあり方 」

2 研究課題

今までの道徳委員会の研究を振り返り、以下のような道徳授業の問題点をあらいだし、改善方法を考えて日野小学校で実践していただいた。

道徳授業の問題点	改善の方法
◆ 子どもたちの持っている価値（自然性）が語られず、道徳的価値を押しつけるような授業になりがちであった。	①体験を通して、心に響く道徳授業のあり方を考える。 （体験の振り返り→覚醒・共感→葛藤→実践意欲）
◆ 子どもたちが道徳的問題を自分の事として受け止め、明るい展望の見える心に響く授業が展開されていなかった。	②体験活動と道徳の時間の関連を図るために、体験と道徳の時間を合わせたカリキュラムを考える。 ③道徳性の評価は道徳内容項目から個人内評価をし、児童の様子全体からみていく。 ④道徳授業振り返りカードから、教師の道徳授業を評価し、授業改善につなげる。

3 指導の実際

（１）７月１日の事前授業では、授業者の井出貴博教諭は、授業学級６年竹組の児童の日常体験を生かした自作資料「あいさつの贈り物」で、挨拶をしなければと思いながら返せない場面で自分を見つめさせ、児童が共感し、迷う様子が見られた。

１１月２日の公開授業では、６年生の総合的な学習の時間、中華学校の子ども達へビデオレターを送るために、地域の特徴を取材し紹介するという体験と礼儀に視点をあてたカリキュラム「中華学校にビデオレターを送ろう」を仕組んだ。地域の様子を取材する場面をビデオで振り返り、そこで、地域の方のていねいさに気づき（覚醒・共感）、自分達がどう答えていけばよいか（道徳的問題：葛藤・迷い）、接し方や気持ちを役割演技（模擬体験）から考えた。子ども達は、感謝の気持ちを、笑顔で、目を見て、言葉遣いに注意してなど、礼儀正しく真心をもって接しよう（実践意欲）と考えていた。

（２）日野小学校は、学校教育目標「明るくあいさつする」を実現するために、学校目標と道徳を併せた「真心を育むカリキュラム」を考えて全校で実践した。また６学年では、総合的な学習「中華学校にビデオレターを送ろう」で、児童の実態から、体験活動と道徳の関連を図るために、体験と道徳の時間を合わせたカリキュラムを考えた。そこで、時と場合をわきまえて真心を持って接する「地域の方への礼儀」を考えさせる本時を位置づけた。

（３）Ｒ児の礼儀に対する授業前の評価は、普段友達や教師に対して、相手を尊重する気持ちがうすいような言葉遣いや態度で、礼儀正しく接する様子があまりみられなかった。地域の方からお話を聞く場面では真剣に聞く様子がみられ、ビデオで地域の方の丁寧な接し方に気づき、自分達でどんな気持ちで接すればよいかを考えた時、「ありがとう」の感謝の気持ちを持った。役割演技での意見交換や授業の感想を発表する場面では、「相手の目を見て話したほうがいい。」という礼儀について考えた意見を発表した。

（４）授業者は、事前に、他の組で本時に行う授業を実践した。授業終了後、児童から「道徳授業振り返りカード」で以下の項目で授業を評価してもらった。そこで、発問のあいまいさがわかり、改善して公開授業に臨んだ。

道徳授業振り返りカード

日野小学校

【 番 名前 】 (月 日)

	質 問 内 容	はい ○	いいえ ×
1	資料（お話）は、わかりやすかったですか		
2	先生がたずねていることは、わかりやすかったですか		
3	黒板（提示）は、わかりやすく書かれていましたか		
4	友達の考えを、聞ける場面がありましたか		
5	自分の意見や考えを発表しやすかったですか		
6	今日の学習を通して、考えさせられたことはありましたか		
感想			

4 この事例から明らかになったこと

- (1) 児童は、授業の導入で地域の方からお話を聞くビデオを見て、体験している時には気づけなかった地域の方の接し方に気づいた。また、自分達がどう答えていけばよいかという道徳的問題を持ち、役割演技を通して考えることができた。このように、児童の体験を生かすことは、児童に自分の事として考えさせるのに有効であることが分かった。
- (2) 日野小学校では、4月に「時と場をわきまえて礼儀正しく真心を持って接する」2ー(1)の道徳内容から児童の実態をさぐり、「朝のあいさつの発達段階におけるめやす」を持った。6月のアンケート結果から、全体的に挨拶をほとんどしないか、親しい人に言われて挨拶をすることが多い段階であった。「真心を育むカリキュラム」にそって、全校で「気持ちのよいあいさつ」をねらった礼儀の授業を行なった。その後10月に行ったアンケートから、面識のない人や偶然会った人にも挨拶するようになって、児童にあいさつの広がりが見えてきた。このように、学校教目標具現のために、礼儀（マナー）を道徳性（モラル）として捉え、道徳の時間や総合的な時間を併せたカリキュラムを作り取り組むことは、有効であることが分かった。
- (3) 1時間の道徳授業だけでなく、1年間を通して、礼儀の窓口から、児童の道徳性の広がりを見ていける。また、その後の総合的な学習の中でも様子が分かり評価できる。
- (4) 「道徳授業振り返りカード」から、発問を「相手の気持ちを考える」ように精選したことによって、公開授業後、「先生がたずねていることは、わかりやすかった」の項目があがった。また、どの項目も○が多く、子ども達にとって心に響く授業になったことが分かった。このように、児童による授業評価「道徳授業振り返りカード」は、授業改善の方向や授業の成果が分かり有効であった。

4 来年度への課題

- (1) 今回、礼儀を扱ったが、「心に響く」という状況は、社会的スキルの挨拶「目を見て話す」などではなく、真心を持って相手と心を通い合わせ、気持ちのよい態度や言葉遣いでコミュニケーションをする事と捉えたい。挨拶は行動面で見られるが、深い部分での道徳的思考について、行動の変化は見とれないので、児童の質的な変化を見ていく。
- (2) 授業としては、児童に道徳的な問題を持たせるために、もっと児童に必要感のあるビデオや役割演技のなかで、迷いや葛藤がある手立てが必要だった。また、児童の思考を広げたり深めたりする学習カード（ワークシート）の改良も必要である。
- (3) 年間指導計画は、全体的な視野を持ち、項目を考えて立てる。単元計画は、礼儀と交流の絡みを考えて、題材の選定、整合性や系統性を立てていく。

